

かながわ・横浜から2万人に黙祷

3.11 を忘れない

入場
無料

2016年3月5日6日
at 横浜公園

神奈川県庁本庁舎/象の鼻パーク

5日(土)10:30~19:00
6日(日)10:30~16:00



写真:ロイター/アフロ

東日本大震災からまもなく5年。少しずつ歩み始めた復興への道。
あの時をわすれず…繋がりも忘れず…
あらためて3.11への意識を高められるように



メインイベント 2万人に黙祷

5・6日14:46に黙祷

象の鼻パークにて黙祷をささげます



被災地の今

復興の進捗状況や支援活動の展示



防災減災PR

展示・実演および防災グッズ販売

Events・Programs

会場ステージ

東北の子供や学生や東北支援活動に
ゆかりのある芸能人のパフォーマンス



東北名産品市場

東北と神奈川の名産品市場や
市民による手づくり市を開催



飲食店ブース

東北と神奈川のグルメ対決



3.11を忘れない シンポジウム

～「いのち」を守る自助・共助～

平成28年3月6日(日) in 神奈川県庁 大会議場
12時30分から14時30分まで

入場
無料

<第1部：県内活動団体事例発表>

テーマ「私たちは、どのように活動していったら良いのか」

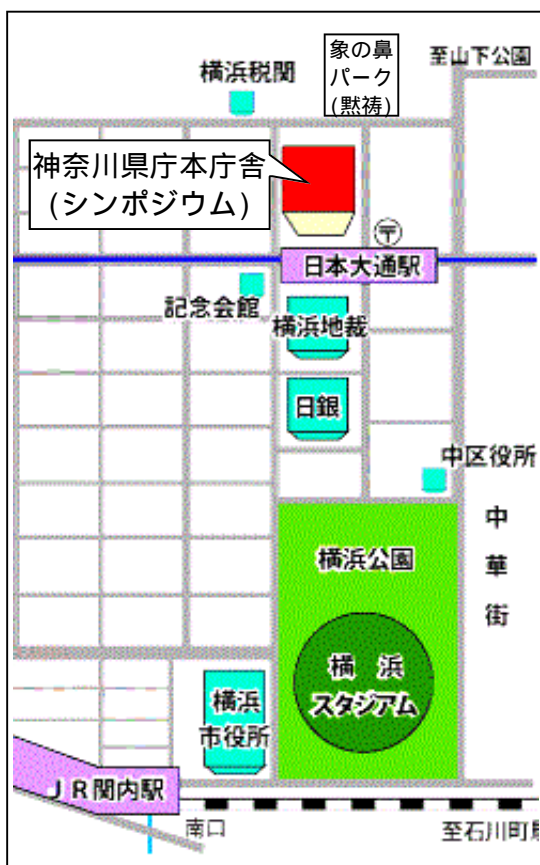
発表団体

- ・ひらつか防災まちづくりの会（平塚市）
- ・モトスミ・オズ通り商店街振興組合（川崎市中原区）
- ・玉縄台特別救助隊（鎌倉市）

<第2部：パネルディスカッション>

テーマ「これからの防災をどうしていくのか」

シンポジウム終了後、象の鼻パークにて14時46分(東日本大震災発災時刻)に黙祷を実施します。



会場：神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 会場定員：約100名
席に限りがありますので、参加を御希望の方は、下記の申し込み先まで、参加希望者の氏名を記載の上、お申し込みください。応募者多数の場合、抽選となります。

募集〆切 平成28年3月3日

お申し込み先:

神奈川県安全防災局災害対策課

TEL : 045 - 210 - 5945 (直通)

FAX : 045 - 210 - 8829

E-mail : saigai-shien@pref.kanagawa.jp

主催 / 神奈川県

共催 / 文部科学省助成研究地域防災支援プロジェクト「神奈川県に係る防災研究データベースの活用を起爆剤とした官学民連携による地域防災活動活性化研究」運営委員会

FAX送付先 045 - 210 - 8829

(神奈川県安全防災局災害対策課 金子 行)

3.11を忘れない シンポジウム

～「いのち」を守る自助・共助～

参加申込書

参加者氏名 _____
(複数名が参加される場合は、代表者の氏名を御記入ください。)

参加者連絡先 TEL: _____
E-mail: _____
(複数名が参加される場合は、代表者の連絡先を御記入ください。)

参加人数 _____ 名

参加を御希望の方は、この申込書に参加希望者の氏名を記載の上、下記の申し込み先まで、電子メール又はFAXにより3月3日(木)までにお申し込みください。応募者多数の場合、抽選となります。

お申し込み先:

〒231-0021

横浜市中区日本大通1 第二分庁舎5F

神奈川県安全防災局災害対策課

TEL : 045 - 210 - 5945

FAX : 045 - 210 - 8829

E-mail : saigai-shien@pref.kanagawa.jp

3.11を忘れない シンポジウム 概要

日時 平成28年3月6日(日) 12:30～14:30

会場 神奈川県庁 本庁舎3階 大会議場

内容 <第1部：県内活動団体事例発表>
テーマ「私たちは、どのように活動していったら良いのか」
発表団体
・ひらつか防災まちづくりの会(平塚市)
・モトスミ・オズ通り商店街振興組合(川崎市中原区)
・玉縄台特別救助隊(鎌倉市)
<第2部：パネルディスカッション>
テーマ「これからの防災をどうしていくのか」

東日本大震災から5年、 復興の今とこれから。

私たちがくらす日本はとても自然災害が多い国。

その中でも地震による災害は特に多く、2011年3月11日に発生した東日本大震災は、未だに大きなつめあとを残しています。

未来に起きるかもしれない災害、その時に子どもたちの不安は少なくあって欲しい…震災後の今を知り、いまいちど、何ができるかを考えます。

2016年3月11日(金)

かながわ県民センター 2Fホール

入場無料

▶第1部 10:30~12:30

基調講演「被災地の今」

被災地の復興状況、震災を踏まえた地域防災の取り組み、復興を支える技術者や被災者支援の取り組みの報告と、6年目にむけての展望について。

▶第2部 13:30~16:30

「ユニセフ・子どもにやさしい空間」ワークショップ

要申込み
定員30名

ファシリテーター：小野 道子(日本ユニセフ協会・子どもの保護アドバイザー)

本田 涼子(日本ユニセフ協会・心理社会的ケアアドバイザー)

災害時に子どもたちを守るため、「子どもにやさしい空間」が世界中の被災地でつくられます。いざという時、誰もが使える“子どもの居場所”づくりの知識と技術を学びます。

赤ちゃんが泣き止まないあやせる場が欲しい

授乳できる場所がないかしら？

避難所じゃ騒げない思い切り遊べないよ元気がでないよ

避難所じゃ落ち着いて勉強できないよ



●プログラム

【講義とディスカッション】

「子どもにやさしい空間」とは？
「子どもにやさしい空間」の実践

【グループワーク】

「子どもにやさしい空間」を
実際に作ってみよう

どなたでも参加できます。

地域住民、PTA、教員など学校関係者、医療福祉関係者、NPOや地域の子ども・子育て支援者や、自治体職員、学生など、子ども支援に関心のある方は是非ご参加ください。

災害だけでなく、「子ども食堂」など、子どもの健やかな成長に必要な“居場所づくり”に役立つヒントも提供します。

2016年3月10日(木) 13:00~20:00 11日(金) 9:30~12:00

かながわ県民センター 1F展示場

かながわ県民センター

〒221-0835

神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

電話045-312-1121(代表)



横浜駅西口・きた西口から徒歩5分

主催:神奈川県
共催:神奈川県ユニセフ協会
協力:公益財団法人 日本ユニセフ協会

基調講演&展示のお問合せ

神奈川県安全防災局
安全防災部災害対策課
TEL 045-210-5945 FAX045-210-8829

ワークショップ&トークセッションのお申込み・お問合せ

神奈川県ユニセフ協会
TEL 045-334-8950 FAX045-334-8951
E-mail info@unicef-kanagawa.jp
URL <http://www.unicef-kanagawa.jp/>

展示

① 行政関連(被災県含む)のブース

② 支援団体のブース

③ 神奈川県ユニセフ協会のブース

「東日本大震災とデザインの力」

被災して“非日常”の生活の中で一番始めに必要なとされたのは居・食・住。しばらくして緊張が解けてくる頃になると、避難先や破壊された町の中で暮らすストレスの大きさに気づき、心は押し潰れそうな気持ちでいっぱいになります。大規模災害、物の支援の次に必要とされたのは心の支援でした。被災地に向向いてガレキを片づける人、避難所で話し相手になる人、現地には行けないけれど寄付を贈る人。それぞれが、被災者のために出来ることを考え、多くの人が行動しました。言葉だけでは伝わらないほど弱っている時でも、心に直接アプローチできる、心を元気にできる、その方法の1つがデザインです。ユニセフでは、デザイナーのみなさんの力をお借りしてこんな気持ちを“形”にして被災地を応援し続けてきました。



ホットラインポスター



子どもにやさしい空間



ちっちゃな図書館



折りのツリー



TEGAMIプロジェクト

要申込み
定員30名

トーク
セッション

2016年3月10日(木) 19:00~20:00

かながわ県民センター 1F展示場控室

福島 治 (福島デザイン)
永井一史 (HAKUHODO DESIGN)
並河 進 (電通ソーシャル・デザイン・エンジン)

県内避難者支援活動展示

「守りたい
子ども未来プロジェクト」



同時開催

3.11 追悼キャンドルナイト

2016年3月11日(金) 19:00~19:30

かながわ県民センター 正面入口付近

主催 特定非営利活動法人
神奈川災害ボランティアネットワーク
問合せ先 090(8803)2417

